

【保健研究センター10月だより②】

～流行が早まっているRSウイルス感染症～

全国の状況

RSウイルス感染症は、これまで11～1月頃にかけて流行する疾患でしたが、2011年以降には7月頃から報告数の増加がみられています。今年も7月中旬（第28週、7月8日～7月14日）から徐々に増加し始め、特に8月19日～9月1日（第34～35週）にかけて急激な増加がみられました。

奈良県の状況

奈良県では8月頃から報告数が増加し始め、9月16日～9月22日（第38週）に検出数が突出しました（図）。定点あたり1.4人であり、これは過去10年の同じ時期と比較して最も多い報告数です。

感染症発生動向調査で8月以降に採取された呼吸器系疾患患者の27検体について遺伝子検査を実施した結果、10月18日現在までに20検体（74%）からRSウイルスを検出しました（表）。検体採取月別にみると、8月1検体、9月13検体、10月6検体で、患者報告数の多かった9月に採取された検体からの検出例が多くみられました。患者年齢は0～2歳代で85%を占め、乳幼児において重要な病原体であることを再度認識する結果でした。臨床症状においては、主な症状である下気道炎だけでなく、上気道炎症状を示す患者からも検出し、全検出数の40%を占めています。

感染対策

今後冬期を迎えるにあたり、流行がピークを迎えると考えられるため、手洗い、うがい等の感染予防が必要です。咳等の呼吸器症状がある場合、飛沫感染対策としてマスクの着用が大切です。また、接触感染対策としておもちゃや手すりをアルコールや塩素系の消毒剤で消毒することも効果的です。

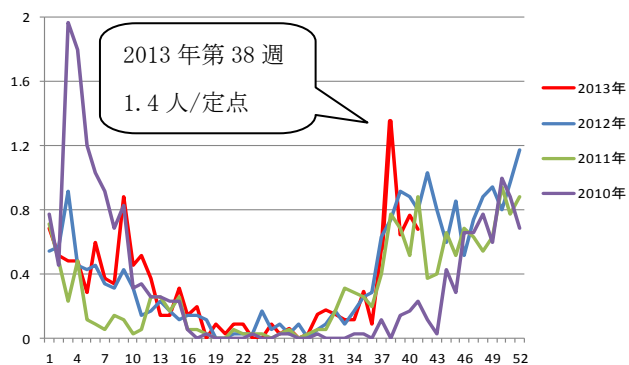


図. 奈良県のRSウイルス感染症定点あたり報告数の推移

表. RSウイルスが検出された患者

採取日	年齢	発熱(℃)	症状
8/14	2歳4ヶ月	38.3	上気道炎
9/5	0歳7ヶ月	不明	上気道炎、下気道炎
9/6	1歳7ヶ月	38.5	上気道炎
9/9	2歳0ヶ月	38.9	上気道炎、下気道炎、脱水症
9/9	2歳10ヶ月	40	上気道炎
9/9	3歳11ヶ月	39	下気道炎
9/9	4歳9ヶ月	39	下気道炎
9/19	0歳8ヶ月	39	上気道炎
9/19	0歳9ヶ月	39	上気道炎、下気道炎
9/19	3歳2ヶ月	39	上気道炎、下気道炎
9/20	0歳8ヶ月	39	気管支炎
9/25	1歳4ヶ月	39	気管支炎
9/27	0歳10ヶ月	40	下気道炎
9/28	2歳2ヶ月	39.5	下気道炎
10/4	2歳0ヶ月	38.5	下気道炎
10/4	2歳0ヶ月	39	下気道炎
10/11	0歳9ヶ月	38	下気道炎
10/11	1歳4ヶ月	39	下気道炎
10/16	0歳2ヶ月	38	下気道炎
10/16	1歳8ヶ月	39	下気道炎

RSウイルス感染症とは、呼吸器系疾患を引き起こす感染症で、年齢を問わず、生涯にわたって顕性感染を繰り返します。主な臨床症状は細気管支炎、肺炎といった下気道炎症状であり、生後1歳までに半数以上が、2歳までに100%が罹患します。特に早産児や心臓・肺に疾患のある乳児、生後3ヶ月以内は重症化する危険性が高く、また高齢者においては集団感染のおそれがあり注意が必要です。再感染例等では典型的な症状を呈さずにRSウイルス感染と気付かれない軽症例も存在します。